

令和 4 年 6 月 3 日現在

機関番号：12606

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12239

研究課題名(和文)カロリング朝写本の物語イニシアルをめぐる総合的・地域横断的研究

研究課題名(英文) A Cross-Regional Study of historiated initials of Manuscripts from the Carolingian Age

研究代表者

安藤 さやか (ANDO, Sayaka)

東京藝術大学・大学院美術研究科・研究員

研究者番号：90807504

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、カロリング朝期(8世紀後半-10世紀末)の彩飾写本の「物語イニシアル」において、文字に表された図像と写本テキストの内容との関係を分析した。物語イニシアル(historiated initial)とは、テキストの内容を説明する図像を文字によって表すものである。物語イニシアルに関する従来の研究では、フランク王国中核地域(フランス北東部)の作例が中心であったが、本研究ではイタリア半島に制作地を帰される作例も含め、地域横断的に作例を収集・分析し、各地域の事例の類似関係や特質を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、カロリング朝フランク王国各地で制作された、物語イニシアルを持つ彩飾写本の事例を収集して目録化し、彩飾を様式論的・図像学的方法によって分析を行った。物語イニシアルに関しては、本邦では研究事例が少ない。本研究は、研究動向の紹介や欧文の先行研究に於ける専門用語の訳語の検討という点で、中世写本研究に貢献することができるだろう。更に、物語イニシアルはカロリング朝美術を特徴づける分野のひとつであることから、この時代の美術が持つ側面のひとつを新たに提言し、美術史、西洋中世学に広く寄与することができるだろう。

研究成果の概要(英文)：This study analyzes the relation between images in scripts and the content of the text in the historiated initials of some Carolingian manuscripts. The historiated initial is a type of script in which a text's content is illustrated with an image within the initial letter of the text. Previous research on historiated initials of the Carolingian age has focused on examples from the Frankish core region. In this study, I collected and analyzed examples from across the region, including from Italy, and examined the similarities and characteristics of the examples from each region.

研究分野：ヨーロッパ中世美術史

キーワード：カロリング朝 物語イニシアル 彩飾写本 写本画 ヨーロッパ初期中世

1. 研究開始当初の背景

カロリング朝期の彩飾写本に関する研究は、W. ケーラーや F. ミューテリッヒによるコーパス (KOEHLER, Wilhelm/ MÜTHERICH, Florentine: *Die karolingischen Miniaturen*, 8 Bde., Berlin, 1930-2009) を初めとして、既に多く刊行されている。これらは基本的に、カロリング朝フランク王国の宮廷の人物の為、あるいは、有力な修道院写字室で制作された豪華写本を中心としたものであった。それに対し、文字の中に挿絵を組み込み文字と画像を融合した「物語イニシアル (historiated initial)」は、イニシアル装飾それ自体が矮小な周辺領域と見做されてきたために、全頁大の豪華な挿絵と比較してこれまで研究が少なかった。

カロリング朝期の物語イニシアルに関する先行研究は、主に次の二つの傾向にあった。第一に、Ch. ヤコビ = ミアヴァルトに代表される、該当する作例のカタログ化の試みであり (JAKOBI-MIRWALD, Christine, *Text - Buchstabe - Bild: Studien zur historisierten Initiale im 8. und 9. Jahrhundert*, Berlin 1998)、第二に、U. クーダーや R. カースニッツらによる個別作例の研究である (KUDER, Ulrich, *Die Initialen aus Amienspsalter (Amiens, Bibliothèque municipale MS 18)*, Ph.D. Diss., Ludwig-Maximilians-Universität, München 1977/ KAHSNITZ, Rainer, *Der Werden Psalter in Berlin, Ms. Theol. Lat. Fol. 358: eine Untersuchung zu Problemen mittelalterlicher Psalterillustration*, Beiträge zu den Bau- und Kunstdenkmälern im Rheinland 24, Düsseldorf 1979, 他)。前者は膨大な量の彩飾写本を扱う極めて重要な基礎研究である。しかしそれ故に個々の作例の詳細な分析には立ち入ることなく、単に目録化に留まっており、その目録も、カロリング朝フランク王国の中核地域、すなわちフランス北東部からベルギーにかけての地域で制作された写本に限定されている。後者では個々の作例の彩飾の図像や造形的特徴が丁寧に分析されたが、物語イニシアルを持つ同時代作例を比較の対象外に置いている為に、その知見がこの時代の美術全体を見通す通史的な視点に反映されているとは言い難い。従って、従来の研究には含まれなかったフランク王国中核地域以外の物語イニシアルの作例を補完し、さらにはそこに詳細な個別研究成果を反映させることで、カロリング朝期の物語イニシアルを俯瞰的に分析することが必要となる。

2. 研究の目的

本研究の当初の目的は、主に以下の二つであった: (1) 物語イニシアルという挿絵・装飾の形式における文字と画像の融合過程の観察から、この時期に起きた芸術的現象を明らかにすること、(2) それがフランク王国内の地域によってどのように異なるかのケーススタディとすること。

(1) 文字と画像の融合過程の分析は、本研究課題がカロリング朝期の彩飾写本だけでなく、中世美術史全般に広く敷衍可能な研究成果を齎すことを示す。物語イニシアルは現存最古の例が 8 世紀前半のものだが、カロリング朝下で初めて大々的に発展し、12 世紀に最盛期を迎える。従って、同じ研究手続きを初期中世の事例だけではなく盛期中世にも応用することが、ゆくゆくは可能となるだろう。また、装飾体系と再現的要素という観点から、例えば初期キリスト教時代の工芸やロマネスク期の柱頭彫刻との比較研究の端緒ともなるだろう。

(2) 地域間の差異に関する検討は、様々な民族によって構成されるカロリング朝フランク王国の、美術史学の側からの新たな位置付けを提起するものである。諸部族が興亡する民族移動期の激動の時代から、西ヨーロッパの殆どを覆う大帝国へと発展する中で、人物の往来や財物の贈与が活発化した。従って、写本画家の移動や書物の贈与・貸借を通して、動乱期の社会情勢が造形芸術様式にも反映されていると見ていい。先行研究より広範囲の写本を、美術史学の方法論から詳細に分析することで、この時代の芸術的現象の一端を明らかにし、歴史・文化史一般に貢献出来る可能性がある。

3. 研究の方法

研究開始時はまず、物語イニシアルを備えるカロリング朝時代の写本の一覧化と、流派 (様式的・地理的に近似関係にある写本グループ) ごとの特徴を明らかにし、影響関係の有り方を具体的に指摘することを目指した。該当写本は以下の通りにグループ化した。A) アルプス以北修道院系写本、B) 9 世紀初頭のアーヘン宮廷派写本、C) インスラー系修道院系写本、D) 9 世紀のイタリア修道院系写本、E) 9 世紀中葉のメッス派写本、F) 9 世紀中葉のトゥール派写本である。但し、制作地や制作年代について議論が大きく分かれているもの、あるいは不明のものについては、これらのグループから独立した G) その他として扱った。

研究上の作業は以下の手順で進めた。(1) 図版・資料の収集と、時期や地域、写字室の系統 (宮廷 / 修道院) に従った分類。これは先行研究に於けるカロリング朝期の写本のグループ化におおむね従った。(2) 資料に基づく、見取り図としての目録の作成。(3) 特に重要と判断される写本を中心とした実見調査。(4) 個別作例の分析。特に、物語イニシアルに表された図像が、そのイニシアルからはじまるテキストの内容と関連しているかという点、および、表された図像の系譜を辿ることに重点を置いた。

尚、COVID-19 の影響で研究代表者が渡欧しての資料収集・写本調査を執行出来ない間、研究協力者の龍真未氏 (2020-2021 年当時チューリヒ大学博士候補生) には、スイスを中心とする最新の研究動向の調査で、植松苑子氏 (2020-2021 年当時ヤギェウォ大学修士課程) にはクラクフ所蔵の史料の調査および東欧言語圏の研究動向調査で多大なる助力を得た。

4. 研究成果

(1) 主な研究成果

まずはフランク王国中核地域で制作された作例の個別研究から着手した。なかでもカロリング朝期の写本のうち最も物語イニシアルの事例が多い、コルビー修道院で制作された写本を取り上げた(アミアン、市立図書館、Ms. 18C)。同写本については先行研究が多いものの、図像の主題についてはいまだ議論の余地が残されている。特に、図像の主題選択とテキストとの関連性が不明瞭な数点のイニシアルを取り上げて分析したところ、単に書かれたテキストの内容を図解するのではなく、修道士らの観想のために敢えて難解な図像を描く、あるいは他のテキストを示唆する図像をイニシアルに表しているという可能性が浮かび上がった(figs. 1, 2)。「物語イニシアル」とは従来、そのイニシアルからはじまるテキストの内容と関連する図像をもつものと定義されてきたが(JAKOBI-MIRWALD, Christine, *Buchmalerei: ihre Terminologie in der Kunstgeschichte*, Berlin 1991, 4. Aufl. 2015 他)、このような事例を踏まえると、「物語イニシアル」の定義を再考する必要があるだろうという見解に至った。尚、この成果に関しては、2018年の西洋中世学会大会ポスター・セッションで報告した後、論文としてまとめた(安藤さやか「形がつくるファンタジー——《コルビー詩編》に於ける文字・図像・装飾をめぐって——」『東京藝術大学美術学部論叢』15号、2019年、5-15頁)。

本研究課題の総括として、物語イニシアルを含むカロリング朝期の彩飾写本のうち、ヤコビ=ミアヴァルト(1998)の目録に含まれていない作例を集め、写本の基礎情報をまとめた上で、個々の物語イニシアルの分析を行った。このうち、聖書・註解書等の写本6点(トリーア、大聖堂宝物庫、Cod. Nr. 61/大聖堂図書館、Ms. 134;カンブレール、市立図書館、Ms. 470;ローマ、ヴァリチェリアーナ図書館、Cod. B 25/II;ヴェルチェッリ、司教座聖堂参事会図書館、Cod. CXLVIII/8;ローマ、ヴァティカン教皇庁図書館、Vat. lat. 3836;ヒルデスハイム、大聖堂・司教区博物館、Inv.-Nr. DS 68)については、其々の先行研究をまとめた上で、物語イニシアルの図像とテキストとの関係について考察することができた。ここで取り上げた6点のうち3点は、従来の物語イニシアルの研究では主たる研究対象とならなかった、イタリア(ローマあるいは北イタリア)に制作地を帰されるものである。

6 写本の物語イニシアルの図像がテキストとどう関連するかを分析したところ、①イニシアルの図像がテキストの内容を説明するもの、あるいは想起させるもの、②イニシアルの図像とテキストの内容が直接的には関連しないが、そのテキストが読まれる典礼を介して関連性が想定されるもの、③イニシアルの図像とテキストに明確な関連性は見出し難いものの3種に大別された。但し、③に関しては図像とテキストが無関係であると断定は難しい例が多い。また、本研究課題では人物像を含む物語イニシアルのみを取り上げたが、動物や植物をモチーフとするイニシアル装飾も、例えば福音書記者像の象徴動物と解釈できるような例(fig. 3)や、動物によって楽園や再生、永遠の生命を象徴する図像として定着していた図像の例(fig. 4)を考慮するならば、物語イニシアルに含まれることになる。従って、イニシアルに表された図像の、テキストの内容との関連という点では、境界領域の作例が非常に多く、従来の「物語イニシアル」の定義には含まれなかった作例が更に多く見込まれるだろうという結論に至った。この成果は研究ノートとして発表した(安藤さやか「カロリング朝期写本の物語イニシアル:基礎資料と研究動向」『千葉大学人文研究』51号、2002年、123-148頁)。

(2) 研究成果の国内外に於ける位置付け

国内では物語イニシアルを対象とする研究は極めて少ない。本研究は、ヤコビ=ミアヴァルトによって着手された、西欧初期中世の物語イニシアルの包括的研究を補完する性格のものである。フランク王国の中核地域だけではなく、イタリア半島を含めて俯瞰的に当該時代の物語イニシアルの様相を把握するという目的は一定程度は達成された。



Fig. 1 ハバククのカンティクム イニシアル d コルビー、800-810年頃
アミアン市立図書館、Ms. 18C, fol. 127v



Fig. 2 ハバククのカンティクム イニシアル d コルビー、800-810年頃
アミアン市立図書館、Ms. 18C, fol. 133r

(3) 今後の展望

上述(1)の主な研究成果の項目で述べた通り、物語イニシアルと呼びうる可能性のあるものとして、動物や植物のみから成るイニシアル装飾も検討する必要があるという見解に至った。扱う作例が膨大になることが見込まれるが、これは今後少しずつ事例を収集していきたい。

また、研究期間中、外国語で発表した研究成果は、個別作例の事例研究のみにとどまった。紙幅の都合もあるものの、カロリング朝時代の物語イニシアルを俯瞰的に把握した上での研究成果を外国語で発表することを当面の課題としたい。

更に、2019 年度末以降、COVID-19 による渡航困難のため、欧州に渡航して調査することが出来なかった。本研究課題で取り上げた作例の一部に関しては、実見調査によって詳細に観察することが出来ず、高解像度写真に頼らざるを得なかった。研究期間終了後、機を見て写本学的分析や、線描・下絵の綿密な観察を行いたい。

本研究課題を遂行する中で、中世彩飾写本に描かれた図像の主題を検討するには、単にテキストの内容だけではなく、そのテキストがどのような場面で、どのように読まれたのかという観点が必要であるという考えに至った。特に教会の典礼で用いられる写本については、朗読することが想定される。従って、「文字」「画像」「テキスト」に加え、「声」あるいは「音楽」といった新たな観点から改めて図像の内容を検討する必要があるだろう。このテーマの研究に関しては、2021 年度から新たに着手したところである。

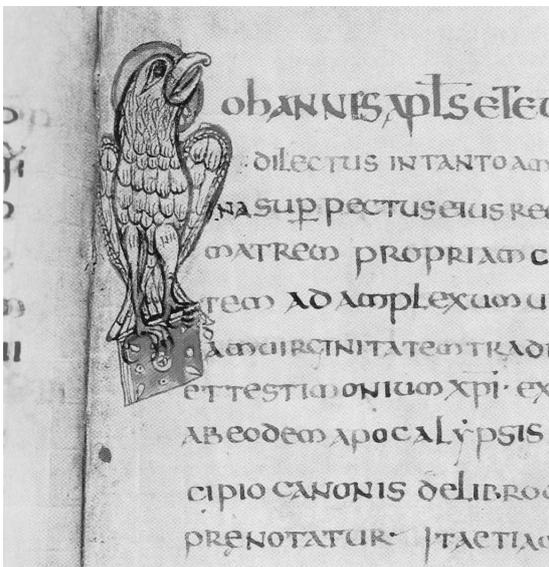


Fig. 3 イニシアル I イタリア、9 世紀初頭
ローマ、ヴァリチェリアーナ図書館、Cod. B 25/II,
fol. 66r

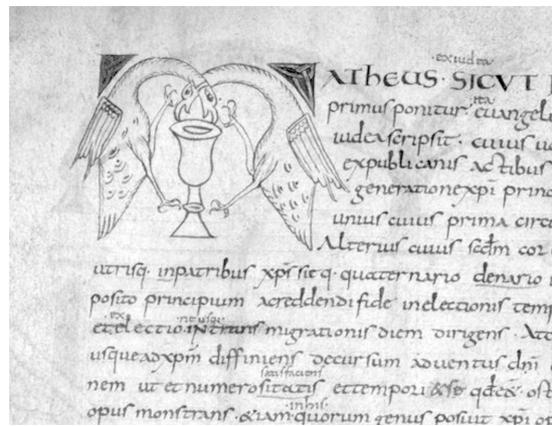


Fig. 4 イニシアル M フランス、9 世紀第 3 三半期
ヒルデスハイム、大聖堂・司教区博物館、Inv.-Nr.
DS 68, fol. 22v

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Sayaka ANDO	4. 巻 17
2. 論文標題 Geburt Antichristi: die Wirkung der Initialenornamentik auf die Bilentstehung des Corbie-Psalters	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Aspects of Problems in Western Art History	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 安藤さやか	4. 巻 10
2. 論文標題 《コルビー詩編》の「生命の泉」 カロリング朝美術に於ける図像と装飾の統合をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 121-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 安藤さやか	4. 巻 15
2. 論文標題 形がつくるファンタジー 《コルビー詩編》に於ける文字・図像・装飾をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京藝術大学美術学部論叢	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 安藤さやか	4. 巻 16
2. 論文標題 《ヴェスパシアン詩編》The Vespasian Psalter, London, British Library, Cotton MS Vespasian A I	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aspects of Problems in Western Art Hisotry (東京芸術大学西洋美術史研究室紀要)	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安藤さやか	4. 巻 51
2. 論文標題 カロリング朝期写本のお話イニシアル：基礎資料と研究動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学人文研究	6. 最初と最後の頁 123-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/s03862097-51-p123	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 安藤さやか
2. 発表標題 形から生まれるファンタジー カロリング朝装飾写本のイニシアルに於けるテキスト・文字・画像
3. 学会等名 西洋中世学会 第10回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sayaka ANDO
2. 発表標題 Das Erbe der karolingischen Initialenornamentik: Zierseiten der illuminierten Handschriften aus Corvey
3. 学会等名 Online Workshop: Die mittelalterliche Bibliothek der Reichsabtei Corvey. Bestaende, Forschungsstand, Perspektiven (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安藤さやか
2. 発表標題 西欧初期中世典礼書本の装飾イニシアル: Te igiturとVere Dignumのモノグラム化
3. 学会等名 シンポジウム「東西中世における修道院・寺社の書物文化:制作・教育・世界観の変容」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 越宏一（編集）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 414
3. 書名 中世美術の諸相	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	龍 真未 (RYU Manami)		
研究協力者	植松 苑子 (UEMATSU Sonoko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------